

第5学年 国語科学習指導案

- 1 単元名 「注文の多い料理店」 宮沢 賢治
- 2 目標
 - 紳士たちの「おかしさ」という視点から丸ごと読みすることを通して、紳士たちの言動のおかしさについて考えを持つことができるようにする。
 - 丸ごと読みすることを通して、紳士たちの「おかしさ」を山猫の注文と対比しながら、物語全体から見つけたり、紳士たちの様子や言動をつないだりして読み味わうことができるようにする。
- 3 指導上の立場
 - 児童の実態

削除しています。

○教材観

山深いところにある「注文の多い料理店」を舞台として、二人の若い紳士と山猫の行き違いがユーモラスに描かれている作品である。二人はご馳走を期待し、山猫は二人をご馳走として食べられるように注文を繰り返す。最後に二人は、身勝手な言動から消えることのない印を顔につけられてしまう。都会文明に対する反感が自己中心的な二人の紳士に対する反感という形で表現されている。作者の痛烈な思いがかくされているが、子どもたちは戸に書かれた注文と紳士の言動を中心に描かれている単純明快な展開と、戸の奥へ奥へと進んでいく期待感を味わいながら読み進めていこう。

また、この作品は二人の紳士や山猫の会話、次々に出てくる戸に書かれている注文の言葉、多彩な色彩、場面の展開を表す描写等、様々な表現上の工夫がなされているこ

とも特徴がある。本単元ではそれらの面白さや表現上の工夫にも気付かせることにより、子どもたちの感じたこと、考えたことを大切にしながら、作者の思いへと追っていきけると考える。

○指導観

①課題をつかませる工夫

初発の感想を持たせるときには、全文をまとめたワークシートに、自由にサイドラインを引かせて短い言葉で感想を書きこませるようにする。このことにより、一人ひとりの子どもが抵抗なく物語について新鮮な感想を持つことができるようにする。また、自分がどの場面でどのような感想を持ったのかとらえやすくする。

次に、これらの感想を紹介させる。それを黒板に提示し、紳士たちの言動のおかしさを山猫の「注文」と対比させながらとらえさせ、課題「紳士たちのおかしさを確かめよう」をつかめさせる。

②読む活動の工夫

○一人読みの工夫

ワークシートを用意し、課題に関係する箇所にサイドラインを引かせ、気づいたことを書きこませる。

③学習記録を活用する

この単元の学習を通して、3枚のワークシートが使用され、学習記録として作られる。これをノートに張っていく。この記録を前時の振り返りや深まりの資料として活用できるようにする。

④単元構想の工夫

第3次の第1時では、作者の言いたいことや本当に注文が多かったのかなど総合的な読みをする。これにより、読みの正確さ、深さを高め、大局的・総合的読みと微視的・分析的読みのよさが一体化するようにする。

○指導計画（全9時間）

第1次 物語を直観し、丸ごと読みの課題をつかむ。（3時間）

第1時 初発の感想をワークシートに書く。

第2・3時 初発の感想を話し合い、丸ごと読みの課題をつかむ。

第2次 課題に即して物語を丸ごと読みする。（4時間）

第1・3時 「紳士たちの言動のおかしさ」について自分の考えを持つ。

第2・4時 「紳士たちのおかしさ」について話し合い、課題を確かめる。（本時）

第3次 物語の主題について話し合う。（1時間）

第1時 作者の言いたいことは何かについて、話し合う。

第4次 読書の楽しみを広げよう。(1時間)

第1時 宮沢賢治の作品を進んで読もうとする。

○研究テーマ

「心を開き、思いや考えをことばで伝え合う子どもの育成

～国語科の学習を通して～」

に迫るために、以下のことに取り組んだ。

- ①長い物語であるため、事前に音読の課題を出し、理解しやすくする。
- ②ひとりひとりそれぞれ書き込みをし、それをもとに発表しやすくする。
- ③小グループで取り組むことにより、自分の考えを発表しやすくする。
- ④児童と同じワークシートを掲示し、書き込みをすることにより、抵抗なく取り組めるようにする。

4 評価

- A 自分の考えを深めたまとめが自分の言葉で書くことができた。(ワークシート)
- B 「おかしさ」を見つけ発表できた。
- C 発表ができなかった。

5 本時案

本時目標	山猫と紳士二人の言動を対比させ、山猫と紳士たちの「おかしさ」について読み味わうことができる。	
学習活動	指導上の留意点	評価
1 課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none">・前時の学習を想起させ、今日の課題を確認する。山猫と紳士たちの、おかしさについて話し合おう。・音読をして、物語の理解しやすくする。	おかしいところを見つけ、発表できる。
2 仲間読みをする。 ①グループで	<ul style="list-style-type: none">・小グループごとに話し合う場を設け、自分と異なる読みや読み方に接することで、自分自身の読みや読み方に気づいたり、広げたり深めたりすることができるようにする。・紳士のおかしさのベスト3を決め、それをもとにグループで発表するようにする。	
②学級で	<ul style="list-style-type: none">・児童と同じワークシートを用意し、児童の発言を受けて線を引いたり、理由を書き込んでいくことにより、つないだりして、読みを書き込んだりすることにより、友達の考えと比べることができるようにする。	

<p>3 学習のまとめをする。</p> <p>4 次時の予告をする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小グループで話し合った紳士のおかしさについて出すようにする。 ・発表を少し苦手とする児童には、事前にワークシートをチェックし、意図的に指名し、発表ができるようにする。 <ul style="list-style-type: none"> ●「十円だけ山鳥を買って・・・」から紳士の行動を考えさせる。 ●「1 ペン紙くずのように二人の顔・・・」に注目させる。 ・板書を示しながら学習の成果を振り返り、ノートにまとめる。 ・次時は、作者の言いたいことについて学習することを伝え、見通しを持つようにする。 	
---------------------------------------	--	--